

1. 評価報告概要表

作成日平成20年 10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100208
法人名	有限会社ふるさと
事業所名	グループホーム原市
所在地	安中市原市正善1867 (電 話) 027-380-2575
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(平成20年 9月 25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 6人, 非常勤 10人	常勤換算9人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1日	800 円	その他の経費(月額)	光熱費	1日100円
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	100 円	
	又は1日 1,200円				

(4)利用者の概要(9月 25日現在)

利用者人数		15 名		男性 8 名		女性 7 名	
要介護1		3 名		要介護2		3 名	
要介護3		6 名		要介護4		2 名	
要介護5		0 名		要支援2		1 名	
年齢	平均	80.9 歳		最低	62 歳		最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	みやぐち医院・アミヤ医院・今井歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、安中市を通る国道18号線から北に入る田畑が残る静かな住宅街にあり、妙義山や榛名山が眺められる自然豊かな環境にある。瓦葺の平屋造りのホームは、玄関ポーチが広く長椅子が置かれて、外気浴やティータイムには適した空間となっている。共用空間には管理者が選曲する耳触りのよいBGMが流れている。ホールには平行棒が置かれ、日常生活のなかで筋肉トレーニングを取り入れ、生活動作の改善に努めている。職員は熱意を持って、理念で謳っている地域との関係性を大切に入居者が望む在宅生活の実現と自立支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の取り組みとして、地域密着型サービスとしての理念を創り変える、終末期ケアについて家族、医師、看護師、関係者と繰り返し話し合い方針の共有を図る等の取り組みをしている。鍵をかけないケアを実践し入居者の自由な生活を支援したり、災害時には近隣の方に協力をお願いするなど改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	運営者や管理者は評価の意義を理解しており、職員に自己評価や外部評価について回覧するように話をしている。今回の自己評価は、管理者が中心となり作成している。全職員と共に評価項目を振り返り、見直しする取り組みをされるよう期待する。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれ、ホームの利用状況、行事等の運営、評価結果等を報告し、出席者からの意見をサービス向上に活かしている。会議において、納涼祭に市職員や地域の方へ参加要請を行い、入居者と一緒に盆踊りを楽しんで頂いたり、地域の方に災害時の協力をお願いする等ホームの運営に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	ホームの利用案内に苦情相談窓口の連絡先を記載したり、ホーム内に掲示し、家族に説明をしている。また家族が来訪した折に声をかけ、意見を出していただけるように働きかけをしている。家族会からの意見も、納涼祭の実施や入居者の関わり方の工夫等ホーム運営に反映をしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	散歩に出かけ近所の方と挨拶を交わしたり、近所の方が野菜を届けたりしている。ホーム主催の納涼祭には地域の方を招待し、入居者と共に盆踊りを楽しむ等親睦を深めている。また職員は地域の道路清掃に参加し、地元の小学生の体験学習受け入れ依頼や敬老会の招待等があり、交流に努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスとしての地域での生活支援と地域住民との関係性の強化を謳った理念に創り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所やホールに掲げ、管理者は職員に理念を伝え、介護の考え方や方向性を確認し合っている。入居者の出来ることへの言葉かけやリハビリ体操等で日常生活動作の向上に取り組み、地域の方との関わりを楽しむ等の支援を考え日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に出かけ近所の方と挨拶を交わしたり、近所の方が野菜を届けたりしている。ホーム主催の納涼祭には地域の方を招待し、入居者と共に盆踊りを楽しむ等親睦を深めている。また職員は地域の道路清掃に参加し、地元の小学生の体験学習受け入れ依頼や敬老会の招待等があり、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は評価の意義や目的を職員に伝え、評価結果について目を通すように話している。自己評価は、日頃職員が感じている意見や課題等を聞き、管理者が中心になり作成している。しかし評価の一連の過程を通した全職員での取り組み方はしていない。	○	全職員と共に自己評価の項目を一つ一つ振り返りや見直しを行い、合わせて評価に関わる記録の作成に努めていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議は開催されている。ホームの利用状況、行事等の運営、評価結果について報告し、出席者からの意見をサービス向上に活かしている。最近では、納涼祭実施の企画立案、災害時の協力体制のあり方等話し合いがなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、納涼祭にホーム運営のあり方や視察を兼ねて参加して頂いている。今後もホームの問題解決のための相談ができる関係作りを行っていく方針である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時や利用料の支払い等に見えたときに、暮らしぶりや健康状態を伝え、来られない家族には電話で報告している。日用品を購入した場合はホームで立て替え、レシートを提示して支払いをして頂いている。職員の異動や離職についても報告している。現在、ホームの情報を掲載する広報紙を検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情等の把握に努めている。意見箱の設置や苦情相談窓口について書類に明記し、入居時に説明をしている。家族会は年2～3回開かれ出された意見や市からの介護相談員の情報を取り入れ、納涼祭の実施や入居者の関わり方の工夫等ホーム運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、異動や離職が最小限に抑えられるよう職員の力が発揮しやすく働きやすいように、得意なことを活かした役割を与え意欲を引き出すようにしている。代わる場合は、状況にもよるがお別れを述べる機会を設けたり、入居者や家族が安心するよう言葉かけを工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービス連絡協議会及び安中市の協議会の研修会に積極的に参加し、報告書を作成し申し送りや会議で報告をしている。ホーム内においては外部の講師を招き、研修をしている。職員は管理者から指導を受け、働きながらトレーニングをしている。運営者や管理者は、段階に応じてのスキルアップの方法や実地訓練(OJT)のあり方を模索している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交換研修や会議や勉強会の折に交流を持ち、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があると、雰囲気や職員を知ってもらうため本人や家族にホームに来てもらうことから始め、試験的に数日間生活を送ってもらう等もしている。入居を急ぐ場合は、家族やそれまで関わった関係者に頻繁にホームに来て頂き、安心感をもてるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から戦争体験、地域の風習や食べ物、漢字等を教えてもらっている。読書や計算ドリル、ゲーム、貼り絵や塗り絵、カレンダー作りを職員と一緒に楽しんだり、短歌を詠んだり、ちぎり絵の創作をしている。喜怒哀楽を共にし、学び、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の祖父母であるように声をかけ優しく関わり、思いや希望の把握に努めている。希望を大切に入居前の生活習慣から夜間居室の照明をつけたまま対応し、ホームに段々となれてもらうなど可能な限り要望にそった対応を心がけている。言葉で表現されない入居者には、家族から話を聞く等している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は入居者との日々の関わりや会話から思いをくみとり、家族等の訪問時に意見や要望を聴き、必要な関係者からの情報を得て、会議で話し合っている。ケアマネジャーがまとめ、3ヶ月毎にプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回、ケース会議を職員全員で行い、温度板や排泄チャート、体重測定記録等を参考に心身の健康状態の変化や家族や職員からの意見や情報を活用し、介護計画を随時見直し、家族に連絡をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医に受診の際に、職員は同行し状況報告を家族にしている。また、近くの美容院への同伴や理容師にホームに来てもらう等している。地域の方からの介護相談に対応し、必要なサービスや社会資源等の情報提供をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医や本人や家族の希望でホームの協力医に受診している。協力医の医師が、毎月1回程度往診に見え、入居以前からのかかりつけ医を受診している入居者についても相談に応じている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	疾病の重度化や終末期を迎える入居者の受け入れを、入居時に説明をしている。家族からの希望、看取りを行なったケースもある。全職員は看取りを経験した職員を中心に、看取ることへの意義の理解と具体的な方法等の検討を図り、取り組みをしている。	○	今後、家族、医師等、看護師、職員が方針を共有し話し合われた内容の記録やリスク管理を徹底することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりの人格を尊重し、内容により他の入居者が居ない所で話を聞いたり、排泄誘導の言葉かけ等の際にプライバシーを損ねないような対応に配慮している。記録類は事務室に保管し、個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でのテレビ鑑賞や趣味活動、ベッドで横になったり、散歩に出かける等自由に行えるよう支援している。一人ひとりのペースを大切に、希望にそって支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や食事の後片づけを職員と一緒にいき、会話しながら食事をしている。ゆっくりと時間をかけて食べる入居者には他の入居者より先に配膳し、せかせずに食べ終わりを見定め下膳をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2日の入浴日になっていて、順番に入浴をしてもらっている。希望によりいつでも入浴が可能である。入浴を拒否する方には言葉かけを工夫し入浴をしてもらうが、シャワー浴や清拭で対応する場合もある。入浴剤、季節の柚子や菖蒲で入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、清掃、当番を決めてテーブル拭き、雑巾縫いや布を切ること等、お願い出来そうな仕事で一人ひとりの力を発揮してもらっている。興味や力に応じて、ドリルやかかるたゲームを職員と一緒に رفتたり、短歌を詠んだり、ちぎり絵創作を楽しむ等の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の朝や夕方に近くを散歩したり、広いポーチに置かれている長椅子で日向ぼっこを兼ねたティータイムを楽しんだりしている。また、桜や紅葉には妙義山へドライブする等支援している。戸外への外出は自由に行なえるようになっているが、安全確保のため職員は後ろから付き添ったり、ホーム内から見守りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の行動パターンやその日の気分や状態を把握して、自由な暮らしを支援している。夜間や入居者が不穏状態でない限りは、施錠を行わない取り組みをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回ホーム内で災害避難訓練を入居者の方と全職員で実施している。災害時の協力を近隣の方にお願ひし、運営推進会議でも地域に協力依頼をしている。水や非常食は備蓄し、普段から入居者の方や職員間で話題にして意識づけをしている。今後の課題として、消防署の協力を経て地域住民の参加の避難訓練を実施していくことを目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者から希望を聞き、献立を作成している。食事量や水分量はチェックし介護記録に記載され、職員はその情報を共有し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入ると季節の花が飾られている。ホールは天窓からの採光で明るく、食卓と椅子が中央にあり、ソファが端に置かれ一人で過ごせる空間となっている。壁には季節毎の飾りや入居者の作品が掲示されている。ホール脇がキッチンでご飯の炊ける匂いや茶碗の洗う音など生活観が感じられ、ホーム内にはBGMが流れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆や椅子、テレビ、家族の写真、好みの雑誌等が持ち込まれ、入居者が作成したちぎり絵や短歌、習字、カレンダーが壁にかけてある。本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		